

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

わたしたちの社会はケアの必要に溢れている。

〔わたし〕は、朝起きて、身支度をし、食事の準備をなるべく簡単にすませ、食べ、食器を洗う(かどうかを時に迷う)。歯磨きを済ませ、また鏡を少し見してから玄関を出て、ゴミをもち、出勤途上でそれを捨てる。住まいがマンションなら、管理人さんが玄関や共用部分を掃除してくれるかもしれない。出会えば朝の挨拶とともに、「ご苦労さま」と声をかけ、ゴミの収集車とすれ違いながら、出勤のために最寄りの駅に向かう。

あるいは、まだ言葉を解さないような小さな子どもを育てていけば、〔わたし〕は、また違った朝を迎えるだろう。出勤時間に間に合うよう、子どもを保育園に連れて行かなければならない。子どもを起こし、オムツをかえ、顔や手をつけてやり、今日一日元気で過ごせそうか熱を測る。子ども用の食事を与え、食事を楽しむ子を見届け、また汚した顔や手をつけてやり、嫌がるのをなんとかだめながら歯磨きをさせ、時間がないうち、絵本をもってきたりすれば、時間を気にしながら少し読んであげる。今日一日の天候と気温を気にしながら服を着替えさせ、もう一度オムツを確かめ、保育園用の持ち物をチェックする。こうした時間と気遣いと手間が、右記の自分の出かける準備に加わるだろう。

子どもの世話は自分の身支度よりも随分と時間も手間もかかるだろう。自分の身体のことなら、調子が悪いかどうか、確かめるまでもなく分かる。気候についても、体感で今日の服装を決める。しかし、子どもはあくまで他人であり、言葉が解さなければなおさら、その日の具合は、起きたときの様子や食事のとり方、うんちの具合、体温など、あくまで外から推し量るしかない。自分のことであれば、いちいち確かめなくてよいことを、つねに気にかけていなければならない。自分自身については、そのスキ間になんとかこなさなければならない、いや、自分のことなら、子どもの世話のついで程度にできることが多いだろう。

たとえば食事後の歯磨きは、習慣化していれば忘れることはまずないだろうが、他人の身体ケアは、身体的なニーズを実感できないために、時にしつこねてしまうかもしれない。他人の身体への気遣いには、つねに意識しておかなければ忘れてしまうかもしれないケアが含まれるため、(何を今するべきか)と気にかけなければならないといった緊張感が伴う。

もちろん、さまざまな事情、たとえば他者に対するケア負担が重いといった理由からシユウロウしていない場合でも、〈わたし〉は、汚れ物を洗い、部屋の掃除をし、冷蔵庫をチェックし日々必要な買い物に出かけるのかもしれない。朝食後もまた、子どもや高齢になった親の世話をし、子どもの成長に合わせた食事をつくり、衰えていく親に必要なケアは何かを考え、足の衰えた親なら病院にも付き添わないといけないだろう。親が別居しているならば、たまに会う親のために買い物や、そろそろ介護の相談を始めないといけないのではないかと、老親の今後のことを考え、語りあう時間も必要だろう。障がいのある子がいれば、まずその障がいがどのような状況なのかを、専門家をつうじて〈わたし〉が学び、その子の状態を見極める **X** を身に着け、現在何が必要で、今後どのような未来を描いていくのかといったことが頭から離れないかもしれない。

わたしたちがどのような朝を迎えるのか、一人ひとりがどのような関係性のなかで生活を送っているかによって、千差万別なのはいうまでもない。雪国であれば、朝早くから、除雪車が道路を整備してくれているだろう。〈わたし〉を目的地まで運んでくれる公共交通機関についても、駅の構内から車両に至るまで、わたしたちを不快にさせないように、そしてなにより安全のために、多くのひとが整備に携わっている。直接の対人的な関係のなかだけでなく、わたしたち人間は、なにかを気遣い、何事かを配慮し、じっさいに時間や手をかけ、自然界を含めた人間社会を整え、維持し、時にシユウフク^dするような活動を行っている。

〈わたし〉の朝のほんのひと時を一部だけ切り取ってみても、わたしたちの社会には、ケア（気遣い・配慮・世話）を必要としている対象が数え切れないほど存在していることがわかる。上述した例は、ある特定の年齢層の、「健常者」に限定された視点から見た一こまに過ぎないが、**A** まだ、気づいていないケアの対象が〈わたし〉の周りにはヘンザイ^eしている。母子の事例のみに特化しても、ケアの対象である子へのケアは、直接・物理的に世話をしていることに加え、時間の経過のなかで、〈昨日の夜の具合はこうだったから、今日はこんな感じだろうか〉とか、出かける前の天気予報をチェックしたり、子どもの今日の予定から服装を考えたりと、気遣い³、配慮は〈今・ここで〉をこえたプロセスとしての営みである。

B 〈わたし〉は、ケアを待つひとであったり、自分に必要なケアとは何かを理解しない者であったりするかもしれない。また、〈わたし〉は、誰が、何に対して、どのようにケアしているのかについて、その全体像を決して知りえない。目の前でケアの対象をつねに見ながら、それをケアしているひとたちについては思いも及ばないことが多々あるのも、事実だ。

C いや、ケアという用語を文字通り、気遣いや配慮、世話といった意味に理解するならば、わたしたち人間は、つねになにかに気を

配っている。そして、なによりも、(わたし)の身体は、放っておけば維持すらできない。身体は、成長するために、あるいは生きながらえるために、多大なエネルギーを補給し、手をかけてやらないと衰える一方である。健康で自らの身体に違和感がないときは、自分もまたケアの対象であることを意識すらしなかもしれないが、自身でケアできない状況になれば、自分の身体でありながら思うままにならず、他者によるケアが必要となる。

D、例外なくわたしたち自身が、つねにケアを必要としている存在なのだ。他方で、少子高齢社会を迎えた現代において、高齢者介護、また医療看護や障がい者介助、そして保育にかかわる営み等をケアワーク(＝労働)として捉え、よいケアとは何か、ケアする者とされる者とのよりよい関係性とはどのようなものか、あるいは、そのよりよい関係性を築き、支えるためにはいかなる社会制度が必要なのかといったことを論じる専門書は、いまや枚挙に**Y**がない。人間の存在様式の一側面**4**と**Y**についてよいケア(気遣い・配慮・世話)のなかでも、これらのケアワークは、専門職化される傾向もあり、職種によってその程度にかなりの差があるとはいえ、社会制度のなかで確固とした地位を占めることもある。

前者の一般的なケア(気遣い・配慮・世話)については、身の回りの世話であったり、労働であったり、あるいは思いめぐらす時間そのものであったり、その対象もひとやモノ、自然・環境であったりと、人間の気遣いの対象はどこまでも広がっている。これら一般的なケアは無限であるかのようであり、あらゆるわたしたちの営みがケアであるともいえるために、あまりに茫洋ぼうようとしている。他方で後者(看護、介護など)については、**E** 医療看護については専門職として認められてきた歴史が長く、議論はあるにせよ、ケアに必要な態度や関係性、そして行為がある程度明確化されている。**F**、高齢者介護や障がい者介助、乳幼児の保育や子の育児については、ケアの受け手とケアの与え手との関係性のあり方によって、もっと具体的にいえば、そのケア関係が家族関係と重なる場合、専門職化されたケアワークとは異なる性格を帯びる。その理由の一つとしては、看護職とはちがって、介護・介助・保育・育児については、いまだ家族によるケアを原型、あるいは、理想としていることを指摘することができるかもしれない。またそれゆえに、しっかりと社会化されその労働力に応じた報酬が認められているとはいいたい状況にある。

ケアという言葉の語源をサカノボれば、現在の意味とは相反するような意味が込められていることも分かってくる。ケアは、古ゲルマン語の(karo(悲しみ)に由来し、そこから派生する古英語 caru は、悲しみのほか、気がかり、不安、心配、嘆き、困惑などを意味している。つまり、ケアは、思わずそこに注意を向けてしまうような、心の動きを表している。そうした意味の複雑さから、ケアという活動は、やりがいを感ぜさせたり、対象への愛着を生んだりする一方で、極度の疲労と、時に嫌悪感を伴うような労苦ともなる。

このように、ケアは（気にする／気にしない）といったわたしたちの微細な心の動きまで意味してしまうために、いったいいかなる文脈・関係性において、ケア、あるいはケアワークといった用語が使用されているのかについて、まずしっかりと見極めておかなければならないだろう。こうしたケアに込められた複雑な意味あいからも、個別のケアだけを取り出すのではなく、個別のケアが行われている文脈や歴史が注視されなければならない。⁶こうしたケアをめぐる複雑さは、ケアの倫理の特徴の一つである、行為が生まれる文脈や関係性に即した論理構成を生む理由でもある。

（岡野八代『ケアの倫理——フェミニズムの政治思想』による／一部改変）

問一

傍線部 a～f に相当する漢字を含むものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答は、解答番号 ～

- a
- ① スイソウ楽部が出演した
 - ② 不安をフツシヨクする
 - ③ 身体をセイケツに保つ
 - ④ 脱線テンブクする
 - ⑤ お湯でセンタクする

- b
- ① ソンガイを被る
 - ② キズの手当をする
 - ③ 気分をガイする
 - ④ ジヒョウを提出する
 - ⑤ テイヘンと高さ

c シュウロウ

- ① 中国語をシュウトクする
- ② 二代目をシュウメイする
- ③ シュウキョウ改革
- ④ 事態のシュウシュウがつかない
- ⑤ キョシュウに迷う

d シュウフク

- ① 書物のフクダイ
- ② 東京大阪間をオウフクする
- ③ カフクはあざなえる縄のごとし
- ④ クウフクに苦しむ
- ⑤ 道路・橋・車のフクイン

e ヘンザイ

- ① 妖怪ヘンゲ
- ② ヘンキョウの土地
- ③ 八十八か所をヘンロする
- ④ ヘンペンたる知識
- ⑤ 番組をヘンセイする

f サカノボれば

- ① 魚が河川をソジョウする
- ② 水がギャクリュウする
- ③ 右と左はソウタイの関係
- ④ トウハン車線を走る
- ⑤ 借りたお金をヘンサイする

問二

傍線部A・Cの読みを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答は、解答番号 **7**・**8** に、Aから順にそれらの番号をマークせよ。

- A 量る ① なべる ② すずめる ③ せまる ④ ひろげる ⑤ はかる
- C 携わって ① かかわって ② かけまわって ③ こだわって ④ くわわって ⑤ たずさわって

問三

傍線部Bを漢字にしたときの部首を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答は、解答番号 **9** にその番号をマークせよ。

- B スキ ① のぎへん ② かねへん ③ こぎとへん ④ おんなへん ⑤ にんべん

問四

空欄AとFに入る最も適切なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答は、解答番号 **10** に、Aから順にそれらの番号をマークせよ。

- A ① いっそう ② それでも ③ それから ④ そうして ⑤ なおかつ
- B ① たしかに ② かならず ③ きつと ④ あるいは ⑤ かつて
- C ① それから ② それでも ③ むしろ ④ ともあれ ⑤ なおかつ
- D ① なおも ② あえて ③ とはいえ ④ しかし ⑤ つまり
- E ① たとえば ② しかるに ③ したがって ④ おおよそ ⑤ いつしか
- F ① たぶん ② ちなみに ③ しかしながら ④ あるいは ⑤ そのうえで

問五

空欄XとYに充当すべき語として最も適切なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答は、解答番号 **16**・**17** に、Xから順にそれらの番号をマークせよ。

- X ① モラル ② チェック ③ プロセス ④ スキル ⑤ ニーズ
- Y ① かぎり ② おわり ③ しまい ④ いとま ⑤ すべ

問六

傍線部1に「子どもはあくまで他人」とある。これはどういう意味か。この意味として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答は、解答番号 **18** に、その番号をマークせよ。

- ① 自分の子どもでも親の言葉が通じないものだという意味。
- ② 自分の子どもであっても親とは違う性格があるという意味。
- ③ 自分の子どもでも親とは違う内面があるのだという意味。
- ④ 自分の子どもであっても親とは違う権利があるという意味。
- ⑤ 自分の子どもでも一人の人間として尊重すべきという意味。

問七

傍線部2に「つねに意識しておかなければ忘れてしまうかもしれないケア」とある。筆者が本文中で提示している事例のうち、この種の「ケア」に該当しないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答は、解答番号 **19** に、その番号をマークせよ。

- ① まだ言葉を解さないような小さな子どもを、出勤時間の前に保育園まで連れて行く。
- ② 高齢になった親の世話をし、今後のことを考え、介護をめぐる話し合いを行う。
- ③ 他人の身体ケアは、自己と異なり身体的ニーズが実感されないために緊張する。
- ④ 朝食後、食器を洗うかどうかを時に迷い、玄関を出て、ゴミ袋を出勤途上で捨てる。
- ⑤ 子どものその日の具合については、自分の場合と違い、気にかけて続ける必要がある。

問八

傍線部3に「気遣い、配慮は（今・ここで）をこえたプロセスとしての営みである」とある。その説明として最も適切なものを、次の

- ①～⑤のうちから一つ選べ。解答は、解答番号 **20** に、その番号をマークせよ。
- ① 現在や過去の経験や歴史を顧みない態度からみた気遣い・配慮の世界共通の営みのあり方。
 - ② 特定の年齢層や「健常者」に限定されない視点からみた気遣い・配慮の持続可能な営みのあり方。
 - ③ その時、その場所だけでなく、恒常的に配慮しつづけるための気遣い・配慮の不変的な営みのあり方。
 - ④ 時間や場所の違いによって発生する出来事の因果関係をもふまえた上での気遣い・配慮の営みのあり方。
 - ⑤ 特定の時間や場所に限定されず、世界のどこでも通用する気遣い・配慮の営みのあり方。

問九

傍線部4に「人間の存在様式の一側面といってよいケア」とある。この意味として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答は、解答番号 **21** に、その番号をマークせよ。

- ① 〈わたし〉という人間の身体は、放っておけば維持すらできないがゆえに、ケアが人間を存在させる一부를なすということ。
- ② 人間はつねになにかに気を配り、つねにケアを必要としているがゆえに、ケアが人間を存在させている一부를なすということ。
- ③ 自身でケアできない状況になれば、身体も思うままにならないがゆえに、ケアが人間には必要であるという支え合いのこと。
- ④ ケアは社会制度のなかで確固とした地位を占めているがゆえに、ケアが人間を存在させる一부를なしているということ。
- ⑤ 人間が成長し生きながらえるためにケアが必須であり、人間存在の一側面をなすということ。

問十

傍線部5に「文脈や歴史」とある。この意味として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答は、解答番号

22

- に、その番号をマークせよ。
- ① 「文脈」とは、どういう場面でケア、あるいはケアワークといった用語が用いられているかということであり、「歴史」とは、医療看護は社会制度化されているが、介護・介助・保育・育児についてはそうではないといったケアの歴史のこと。
 - ② 「文脈」とは、ケアという語がもともと「悲しみ」という語に由来し、人の心の動きを表しているということであり、「歴史」とは、どのような文脈・関係性において、ケア、あるいはケアワークといった用語が使用されているかという用法の歴史のこと。
 - ③ 「文脈」とは、子どもがいるのかどうか、仕事をしているのかどうか、あるいはケアを待つ人なのかどうか、といったケアが生まれる背景のことであり、「歴史」とは、ケアの受け手と与え手が親子かどうかという歴史的な要素のこと。
 - ④ 「文脈」とは、個別のケアがどのような関係性のなかで行われているかという行為が生まれる背景のことであり、「歴史」とは、ケアが社会制度に組み込まれていった過程やその原因となった歴史的な要素のこと。
 - ⑤ 「文脈」とは、ケアという行為が生まれる背景・関係性のことであり、「歴史」とは、ケアという語が用いられる時代によって意味が異なっていたり、医療看護が社会制度化されてきたというような歴史的な要素のこと。

問十一

傍線部6に「こうしたケアをめぐる複雑さは、ケアの倫理の特徴の一つである、行為が生まれる文脈や関係性に即した論理構成を生む理由でもある」とある。この文の説明として適切なものを、次の①～⑥のうちから二つ選べ。解答は、解答番号 **23** と **24** に、それらの番号をマークせよ。ただし、解答の順序は問わない。

- ① 配慮や気配りは国によって異なるため、風土や習慣に合致させるという複雑さが、ケアという行為とそれらの文脈や関係性などを関連させた考え方を生む理由である。
- ② 個別のケアの事例をたくさん挙げて考えるという複雑さが、ケアという行為が生まれる文脈や歴史や関係性に密着した考え方を生む理由である。
- ③ 人間はつねに他人に気を配っているというだけでなく、つねに他人の視線を気にしているという複雑さが、文脈や関係性に密着した考え方を生む理由である。
- ④ 社会制度のなかで確固たる地位を持つケアワークとそうでないケアの対立という複雑さが、ケアの文脈や歴史に密着した議論を生む理由である。
- ⑤ ケアの対象が、子どもの世話か、親の世話か、障がいのある人の世話か、などという複雑さが、文脈や関係性などを関連させた考え方を生む理由である。
- ⑥ ケアという語が表す範囲、個別のケアの背景、ケアとケアワークの関係などのような複雑さが、ケアという行為が生まれる背景や人間関係性に密着した考え方を生む理由である。

問十二

本文の内容と合致しないものを、次の①～⑦のうちから二つ選べ。解答は、解答番号 **25** と **26** に、それらの番号をマークせよ。ただし、解答の順序は問わない。

- ① 出勤前に保育園児の子どもを世話する際は、あくまで他人である幼児のケアを、つねに気にかけて行わなければならない。
- ② 目の前の他者にケアをする以外にも、雪国で除雪車が道路を整備するような、人間社会を保持するケアが実施されている。
- ③ 〈わたし〉は、どのような人々が、何に對して、どのようにケアをしているのか、その全体像を見極めなければならない。
- ④ 家族による高齢者や幼児などの介護・介助・保育・育児は、今日の専門職化されたケアワークとは異なった性格を帯びる。
- ⑤ 少子高齢社会を迎えた現代では、人間の気遣い・配慮・世話の対象はどこまでも広がって、社会にくまなく展開している。
- ⑥ ケアの意味の複雑さを思うにつけ、いかなる文脈・関係性においてその語が用いられているかを見極めなければならない。
- ⑦ ケアはもともと、思わずそこに注意を向けてしまうような、不安や困惑といった心の動きの意が込められた言葉であった。